

「医療・介護・健康とICT/IoT利活用セミナー in 香川」を開催

《ICT/IoTで安心して質の高い医療や子育て支援、住民の健やかな生活をサポート》

四国総合通信局(局長:吉武 久)は、平成30年2月7日(水)、香川県高松市で「医療・介護・健康とICT/IoT利活用セミナーin香川」を開催し、地方公共団体、医療関係機関、ICT関連企業などから75名が参加しました。

【基調講演】「医療・介護・健康×ICT/IoT」政策の最新動向 総務省大臣官房審議官 吉岡 てつを

地域医療圏で中核病院と域内他の病院・診療所を結ぶ医療連携ネットワーク(EHR)では、医療情報は中核病院から一方向で提供されるのみであり、医療圏ごとにデータ形式も異なっていることを踏まえ、①EHRの「高度化」「双方向化」「データ形式の共通化」によりネットワーク運用コストの低減とデータの広域利用を図る。②個人が生涯にわたり自身の医療・健康に関するデータを記録し、子育てや生活習慣病の重症化予防に役立てる仕組み(PHR)を構築する。③内視鏡開発や診断支援システム構築等の医療技術開発に8K高精細映像技術を応用する。など「医療・介護・健康分野における取組(三本柱)」として総務省が推進する施策を説明しました。

【講演1】かがわ医療情報ネットワーク(K-MIX+)との連携によるEHR/PHR構想 香川大学瀬戸内圏研究センター特任教授 原 量宏氏

全国初の全県的な医療情報ネットワーク「かがわ医療情報ネットワーク(K-MIX+)」の構築に尽力された体験をもとに、「香川県内に16箇所ある中核病院が保有する医療情報を128箇所の病院・診療所とネットワークで共有し、同じ患者の薬の処方情報を時系列で表示したり、異なる医療機関で診療した医療情報を連続したデータとしてグラフ化したりして治療に役立てている。」「中核病院の退院時に速やかに患者をかかりつけの病院に紹介することで在院日数を短縮したり、かかりつけの病院で重複する検査・処方、同じ説明を回避できるなど効果的で効率的な診療が可能になる。」と語りました。

【講演2】マイナンバーを活用した電子お薬手帳「南国市健康ポータル」 高知県南国市市民課長 崎山 雅子氏

少子高齢化、短い健康寿命、高い医療費水準などの課題解決・改善に向けて市民の健康増進と健康に対する意識の向上に取り組んでいること、その具体的な取組として、マイナンバーを活用して母子健康手帳の情報、健診、お薬情報を一元管理し、スマートフォンやパソコンで情報提供・閲覧できる「南国市健康ポータル」を推進していることを紹介しました。

【講演3】官民データ活用の全国展開に向けて 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室参事官補佐 田崎 誠治氏

国、地方公共団体、民間事業者などが保有するデータ(官民データ)を活用し、国民(住民)が安全で安心して暮らせる社会及び快適な生活環境を実現するため官民データ活用推進基本法が制定されたこと、都道府県には自己が保有するデータ活用に向けた推進計画の策定が義務付けられたこと(市町村は努力義務)を紹介ののち、内閣官房IT総合戦略室で活用推進計画を策定するためのマニュアル(手引)を作成していることを紹介し、「具体的なひな型もあるのでぜひ活用してほしい。」と呼びかけました。

アンケートでは、「自治体のみならず民間でも活用できると思った。」「今後の取組の参考になった。」「質疑応答の時間を設けてもらいたかった。」などの感想が寄せられました。

今後とも、四国総合通信局では、地方公共団体、企業、一般の方々に、ICT/IoT利活用に関する理解を深めその取組を進めていただくため、セミナーを開催するなど啓発に努めてまいります。

(主催) 四国総合通信局

(共催) 香川県、四国情報通信懇談会、かがわ情報化推進協議会

(後援) 厚生労働省四国厚生支局、一般社団法人香川県医師会、一般社団法人香川県薬剤師会、全国商工会連合会



セミナーの様